利根山光人
Toneyama Kojin

第129号　2026年5月1日

記念美術館通信
Memorial Art Museum News Letter

〒024-0043　岩手県北上市立花15-153-2
TEL/FAX 0197-65-1808

第１回大賞受賞作品
傍嶋飛龍（そばじま ひりゅう）《夢意識的精神構築記
“暖かい愛情で潤う生命の樹”》

――傍嶋飛龍氏の作品は生命の讃歌の大変な労作で、緊張感あふれる造形と、細密描写の執念がひたひたと迫ってくる。まさに利根山さんの作画のエネルギーが移ったような、不思議な感動を与える優秀作である。

第1回大賞展審査委員長
前田常作氏の講評より

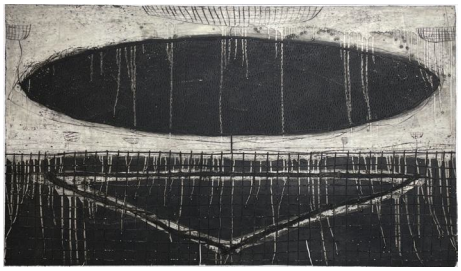
開館30周年記念　前期企画展

利根山光人記念大賞受賞作品展

6月28日（日）まで開催中

北上市所蔵の受賞作品全15点を5年ぶりに展示
大賞展の実績を振り返る企画展

第1回利根山光人記念大賞展ビエンナーレ・きたかみ」は2002年、北上発の全国公募展として開催されました。特徴は何と言っても「祭り」「自由課題」というテーマの設定にありました。「祭」は、利根山光人のライフワークでもあったテーマの反映であり、多くの出品者が画伯の芸術への感動を受け止めた結果、かなりのレベルの高さの作品が集まったと審査員に評されました。以降、2017年の第6回展まで開催の形式は変えつつも、このテーマ性と出品者の意識の高さは変わることなく受け継がれました。図らずも地元の作家が上位入賞者に名を連ねていることも注目に値します。



第２回部門賞（祭）受賞作品
三瓶光夫（神奈川県）《玉響（たまゆら）160》

開館30周年の開幕として、今企画展では上位入賞作品全18点を展示中です（第6回展版画展のみ写真展示）。表現技法も多彩な作品群の魅力を十分に味わい、新しい文化芸術の発展を期す機会としたいと思います。

今年は利根山光人記念美術館開館30周年です

「民俗的エネルギーから離れては僕の存在はないし、これからも民衆のエネルギーを掘り起こしていきたい」と語った利根山光人は、民俗芸能をこよなく愛することでも知られ、北上の伝統的な民俗芸能である鹿踊や鬼剣舞に心酔しました。1991年の「北上みちのく芸能まつり」へ、メキシコのヤキ族の鹿踊を招聘し、北上の鹿踊と共演させるという夢を実現するなど、歴史や風土の異なる国との交流に尽力しました。画伯逝去後、遺族から市にアトリエが寄贈され、利根山光人記念館になりました（1996年）。2001年に「利根山光人記念美術館」に改称され、画伯の作品をはじめ、地元にゆかりのある作家の作品を紹介する美術館として生まれ変わりました。

今年、開館30周年を迎えることから、当館では次の記念事業を計画しています。

R8企画展ラインナップ

中期企画展「利根山光人　日本のまつりと民話」
7月4日（土）～9月13日（日）
素朴で親しみやすいタッチで描かれた、日本のまつりと民話をテーマに描かれた作品を展示。子どもでも楽しめる企画展です。

後期企画展「地の下の挑戦者　金澤隆二展」
9月19日（土）～11月29日（日）
第２回利根山光人記念大賞展部門賞（平成16年度）を受賞した他、岩手県芸術祭芸術祭賞（令和７年度洋画部門）をはじめする全国の公募展で多数受賞歴のある実力派作家です。メッセージ性のある作品や心象風景をリアルな描き込みで繊細に表現しています。

関連イベント

- 作品鑑賞会
- 昔ばなしの読み聞かせ会
- ワークショップと記念インスタレーション作品制作
- 記念トークイベント

詳細は随時ホームページでお知らせします

～＠TONE美～　パブリックアート考

専任研究員　菊地　仁美

⑤岡本太郎の《太陽の塔》

【前回：通信127号からの続き】

渋谷駅の忠犬ハチ公像は駅の改札口の名前にまでなってしまうくらいだから、そのストーリーも多くの人に知られているはずだ。このようにパブリックアート（P.A）にはそこに作られたねらいを持ち、願いが込められている。しかし、道行く人々はほとんどがそんな“願い”に気づく人はいないだろう。日本の街角はとにかくいろんな文字や色にあふれ、情報量が多すぎて空間の価値をP.Aが高めていることがわかりにくいといえる。街の背景でしかないP.Aは何とももったいない。

令和の大阪万博も閉幕を迎えた。前回の大阪万博は1970年に開催されていて、当時の盛況ぶりは連日テレビ等で報道されていた。子供心に世界規模のなんてすごいイベントが開かれているんだと感心していたのだが、そのイベントのシンボルとなっていたのが岡本太郎作の「太陽の塔」。シンプルではあるが何ともたとえようもない独特の容貌のオブジェを小学生時代の私は何回も模写し岡本太郎の名も心に刻んだ。小学生の心に強く引っかかり、描きたくなるという点においてアートとしては成功なのかもしれない。日本で最も有名なP.Aと言える「太陽の塔」は高さ約70m、広げた両腕の長さは約25mにも及ぶ。当時は大阪万博の中心地だった「お祭り広場」に設置され、建築家丹下健三設計の大屋根の中に納まる予定だった。しかし太郎はとにかく「ベラボーなものを作る」と言って、なんとこの天井に穴をあけて突き抜ける形のものを作ると主張し大いに揉めたという。最終的には太郎の意見が通った形となったが、このエピソード、前述の利根山の壁画と聖徳学園のエピソードに似ていて面白い（通信123号①聖徳学園の「生命の樹」参照）。

万博公園にある太陽の塔
（職員撮影、2025年2月）

岡本太郎の巨大なP.Aと言えば渋谷駅西口の連絡通路にある「明日の神話」という横30mの大壁画が有名である。激しい色彩の画面は原爆がさく裂した瞬間を描いていて、人間は悲劇を乗り越える力があるという強いメッセージを持った作品である。この壁画は「人類の進歩と調和」というテーマを持つ「太陽の塔」作成とほぼ同じ時期に描かれていて、一見正反対のテーマにも見えるが、同じ未来を見つめる兄弟のような作品だったのである。（次回に続く）

NEWS TOPICS

アートって楽しい！を伝えたい
～想いに共感した企業から寄附をいただきました

令和8年3月23日、市内藤沢に立地するライズみちのく販売株式会社様と、株式会社中国銀行東尾道支店様から寄附をいただきました。

当館ではこの寄附金をもとに、開館30周年記念事業を拡充して開催します。

ライズみちのく販売株式会社様は、米の集荷・流通・販売を手掛ける会社です。同社代表取締役の奥本浩之様は、贈呈の挨拶で「お米は体の栄養になるが、芸術は心の栄養になる」と述べられ、当市の文化芸術振興に期待を寄せられました。

この場を借りて、改めて感謝申し上げるとともに、皆様へもご報告します。

八重樫市長に目録を手渡す奥本代表取締役
（市都市プロモーション課提供）

発行　北上市まちづくり部生涯学習文化課
〒024-0061　岩手県北上市大通り1-3-1 3F
電話　0197-72-8304　FAX　0197-63-3121

北上市立利根山光人記念美術館
●開館時間　10:00-16:00
●休館日　　毎週月曜日
※展示替え等による臨時休館あり